

漁場効果調査

向野幹生（企画情報部）

1 目的

水産基盤整備事業に係る事業評価および今後の事業推進に資するため、魚礁漁場における漁獲量等の漁場効果を明らかにする。

2 方法

1) 熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

調査対象の中層浮魚礁は、I 礁（白浜町市江崎沖）、SU 礁（すさみ町江須崎沖）、S 礁（串本町潮岬沖）、KU 礁（串本町檜野崎沖）、K 礁（太地町梶取崎沖）の合計 5 か所で（図 1）、和歌山南漁協（本所・すさみ支所）、和歌山東漁協（串本支所・古座支所・浦神支所）と宇久井漁協に所属する曳縄釣漁業者 14 隻により標本船調査を実施した。調査期間は、曳縄釣漁業が盛期となる 3～5 月の春漁を主体とした。なお、調査は 4～5 月および翌年 3 月に実施しているが、結果については暦年で取りまとめた。

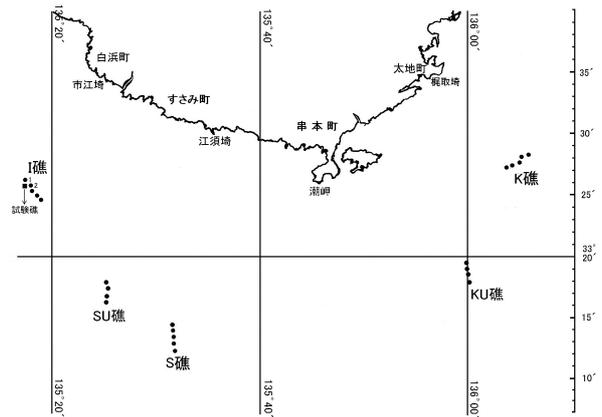


図 1 中層浮魚礁の設置位置

2) 御坊地区大型魚礁（御坊市名田町沖合）

御坊市名田町沖合へ H13 年度に設置された大型魚礁については、当魚礁を利用している紀州日高漁協本所所属漁業者による標本船調査を実施した。調査は 4～3 月の期間実施し、結果については年度で取りまとめた。

3) 日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

白浜町日置沖合へ H20 年度に設置された大型魚礁については、和歌山南漁協日置支所の職員が市場に水揚げした漁業者から操業場所を聞き取り、水揚データを収集した。調査は 4～3 月の期間実施し、結果については年度で取りまとめた。

3 結果及び考察

1) 熊野灘地区中層浮魚礁（白浜町～太地町沖合）

標本船は、延べ 569 隻操業し、カツオ 34.5 トン、その他（ビンナガやキハダ他）7.2 トンを漁獲した。このうち中層浮魚礁での利用延べ隻数と漁獲状況を表 1 に示す。中層浮魚礁では、延べ 64 隻操業し、カツオが 1.9 トン、その他が 0.5 トン漁獲された。

曳縄釣による調査期間中の 3 漁協全体の漁獲量はカツオが 950 トン、その他が 232 トンで合計 1,182 トンとなり、不漁であった前年と比較してカツオは 3.9 倍の水揚げがあった。

この結果をもとに、漁協別標本船での漁獲率（中層浮魚礁での漁獲量／全漁獲量）から推定した、漁協別の中層浮魚礁での漁獲量を表 2 に示す。中層浮魚礁全体では、カツオが 36.8 トン、その他が 18.8 トン漁獲され、調査期間中の 3 漁協全体に占める中層浮魚礁での漁獲率は、カツオが 3.9%、その他が 8.1%となった。

表1 中層浮魚礁の利用延べ隻数と各魚種の漁獲量

利用魚礁域	利用延べ隻数	カツオ	その他
I礁	13隻	102kg	6kg
SU礁	5隻	88kg	2kg
S礁	0隻	—	—
KU礁	33隻	1,382kg	96kg
K礁	13隻	359kg	442kg

表2 中層浮魚礁における推定漁獲量

利用魚礁域	利用船の所属漁協・支所名	カツオ	その他
I礁	和歌山南漁協本所・すさみ支所	3,234kg	286kg
SU礁	和歌山南漁協本所	633kg	14kg
S礁	—	—	—
KU礁	和歌山南漁協すさみ支所 和歌山東漁協串本支所・古座・浦神支所、宇久井漁協	19,264kg	1,653kg
K礁	和歌山南漁協すさみ支所 和歌山東漁協串本支所・古座・浦神支所、宇久井漁協	13,629kg	16,869kg

2) 御坊地区大型魚礁（御坊市名田町沖合）

大型魚礁では、4～5月を中心に利用され、一本釣でマアジが329 kg、イサキが92 kg、マダイが29 kg漁獲された。

3) 日置地区大型魚礁（白浜町日置沖合）

大型魚礁では、一本釣で4月にマダイが0.4トン、6～7月にイサキが1.2トン、3月にマダイが0.1トン水揚げされた。年間を通じては、イサキが1.3トン、マダイが0.6トン、カンパチが0.2トン、その他魚種（ブリ等）が0.3トン水揚げされ、一本釣の出漁隻数1,206隻のうち478隻（39.6%）の利用があった。前年度と比較すると、マダイおよびカンパチが大きく減少しており、合計で約50%減少した。また、利用隻数も前年度比66.5%となり、この要因としては、春季にカツオ曳縄釣漁へ出漁していたためと考えられる。